



3月11日(水)に3年生が橋中学校を卒業し、それぞれの進路に向かって立派なスタートを切ることができました。同時に2年生、1年生もそれぞれの階段を一段上り、次の学年への進級に向けてのカウントダウンが始まりました。

### 卒業おめでとう～第79回卒業式

大変厳かな雰囲気の中、第79回卒業式を挙行することができました。多くのご来賓の方々や保護者のみなさま、橋中学校を託された1・2年生に見守られ、80名の卒業生が輝く未来に向かって旅立つ感動的な卒業式となりました。特にお別れの言葉や合唱はたくさんの人の心に深く刻まれる素晴らしいものでした。呼名された時の返事、歌声、挑む姿勢、すべてで魅せた、素晴らしい3年生でした。

### 在校生の感想から

素晴らしい、あこがれの3年生を見送った後の、在校生の振り返りを紹介します。3年生の想いが、1、2年生にもしっかり届いていました。

〈2年生〉

- ・3年生の卒業式に対する思いが良く伝わってきました。
- ・3年生の表情や空気感、一人ひとりが自信をもって声を出している姿から、「最後まで見本になる」という姿勢が読みとれて、とても感動しました。来年は今年の3年生を越えられるように頑張ります。
- ・準備、片づけをしたことで、昨年も2年生が支えてくれたのだなと思った。来年は自分たちが卒業する番、2年生が支えてくれていることを忘れないようにしたい。
- ・全部片づけが終わった体育館を見たとき、明日から最上級生だから頑張ろうと思った。

〈1年生〉

- ・涙が出そうなときもあったし、さみしい気持ちも多かったけど、来年は先輩になるという自覚が持てた、そんな気がした。これからは自分のことだけでなく、下級生と上級生のことをちゃんと見て、立派な2年生になりたい。
- ・入学したとき、3年生が笑顔で迎えてくれたことがとても嬉しかったです。3年生がいなくなるのは悲しいですが、3年生みたいに強くなりたいです。



### はなむけの言葉

○校長式辞(抜粋)

今日で東日本大震災から15年が経ちます。あまりにも急に多くの命や家や故郷が失われた日です。みなさんが0歳の時です。みなさんが生まれてから今日まで歩んできた時間と同じだけ、被災地をはじめとした復興に向けた努力は続いています。人生、何が起きるかは分からない、そう思います。

加えて、「予測不能な社会」。その時、その時に自分で考え、判断して、やってみるしかない先が見えない時代。でも、先が見えなくても、思わぬことが起きたとしても、その先に進んでいくしかない。みなさんなら乗り越えていけると信じています。

モンゴメリの著作「赤毛のアン」の主人公アンの言葉を紹介します。

物語の最終章で16歳になったアンは人生最初で最大の岐路に立ちます。

努力で勝ち取った大学進学をあきらめ、育ての親マリヲを支えることを決意する。そんな場面での言葉です。

「自分の未来はまっすぐにのびた道のように思えたのよ。いつもさきまで、ずっと見とおせる気がしたの。ところがいま曲がり角にきたのよ。曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものに違いないと思うわ。その道がどんなふうのびているかわからないけれど、どんな光と影があるのか—どんな新しい美しさや曲がり角や、丘や谷が、そのさきにあるのか、それはわからないの(村岡花子訳)」

曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからない。でも、きっといちばんよいものに違いない。…つまり「いろいろなことが起こるし、先のことは分からないことも多いけど、どんな状況でも、前向きに進もう」というメッセージです。これから歩む中で、様々な曲がり角に出会います。そんなときに、是非、その先にあるものが良いものであるという希望をもって、未知の世界に羽ばたいてください。

